

本学の特徴を生かした教育

全国に11の単科の国立教員養成大学がありますが、本学は中でも規模が小さい大学です。小規模大学のメリットは、学生と教員との距離が近い。少人数教育ができるということ。本学では、対話形式を重視した学生参加型の授業、懇切丁寧な研究室ゼミや卒業論文指導を展開しています。その利点を生かして、「奈良」に基礎を置いた上で、「個性」と「特色」を生かした大学改革をさらに進め、全国の教員養成拠点大学のひとつと言われるように努力していくつもりです。

運営費交付金の削減が続く 状況下での大学運営

法人化後5年半を経過して、第一期中期目標期間も半年を残すだけとなりましたが、運営費交付金の継続的な1%削減をはじめとして、国立大学法人は経営的に極めて厳しい状況に置かれています。分けても教員養成系大学は、早いテンポで変化する教員養成政策と相まって、どの大学も悪戦苦闘しているというのが実状です。その中において本学は、経営の効率化を推進するとともに、文部科学省から各種の教育改革支援事業をはじめ多くの競争的資金を獲得し、他大学に比べても群を抜いて、教育改革・改善を推進してきた実績があります。

その一つとして、教員養成教育のさらなる質的向上を目指した、「新任教員に求められる資質能力目標に基づく教員養成のためのカリキュラム・フレームワーク (Cutter・Curriculum Framework for Expert Teachers)」の取り組みがあります。Cutterは、学生が教師として身につけるべき資質の保証を目的に教育課程を構造化し、その教育において大学教員は教員養成の目標を共有する一方で、専門職としての教員の養成に必要な知識・能力・技能・態度等を明確に示し、学生は卒業までに獲得すべき新任教員に求められる資質能力目標に照らして、各授業科目から何を学び、どのような資質能力を身につけたかを自覚しつつ、教育実践力を備えた教員として育つことを目指す仕組みです。

地域と連携した先導的取組(理数科教員養成プログラム)を他の分野へも拡大

教育研究面では、全国の先導的取り組みとして、「理数離れ」に対応した「理数科教員養成プログラム」を、県内各地・学校との連携による、実践的で専門性に優れたキャリア教育を充実させています。今年2月には、その拠点として新たに「理数教育研究センター」を設置しました。このセンターは、広く学外の方も利用できる科学実験機器を備えた「オープン・サイエンス・ラボ」を併設するなど、地域に密着して理

数科教育の内容を深め、方法を改善する研究を進めています。これを典型として、他の教科へも拡大していきたいと考えています。法人化後、奈良県・奈良市教育委員会はもとより、近隣市町村などとも連携を拡大・強化してきました。学校現場と協同する取り組みは、学生の実践的指導力を高める上で大変重要なことであり、大学としても教育研究の成果を、「支援」という形で還元していくことを進めています。

「奈良の世界遺産・文化財」を活用した教育

本学は平成19年7月に、日本の大学として初めて、ユネスコ・スクール(ユネスコ協同学校)に加盟しました。また附属中学校も、全国ユネスコ・スクールネットワークの拠点校の一つになっています。「世界遺産教育」をキーワードに、世界遺産の保全・保護に関する環境

教育及び文化教育を進めています。これらは、本学の文化財分野における、50年近い教育研究の歴史の延長上にあるものと捉えることができるでしょう。

また昨年10月、これまでその実態が不明とされてきた、新薬師寺の金堂と推定される大

長友恒人新学長が語る

奈良教育大学これから

平成21年10月1日、第11代奈良教育大学長として、長友恒人名誉教授が就任されました。長友新学長に、本学の教育についての抱負と展望について語っていただきました。

型基壇建物の遺構が本学構内で検出され、全国の話題を集めました。全面調査は資金面からも厳しい状況ではありますが、本学の財産・文化遺産として、保存を基本に教育への活用などを検討しています。

世界遺産や文化財の研究成果を、「奈良」の特色ある教材として学校教育の中に取り入れていく開発的研究と実践、これも本学の個性・特色の一つとして生かしていきたいものです。

大学院における修士課程と専門職学位課程の役割と融合、学部教育との接続

大学院においては、奈良県教育委員会等のご理解とご協力のもと、平成20年4月に「教職大学院(専門職学位課程)」を開設し、プロ

フェッショナルスクールタイプの高次元実践型教員養成をスタートすることができました。今後、研究を主とした修士課程と、教職実践を主とした教職大学院との区別化を図りつつ、理論と実践の往還として総合化を図るとともに、学部教育との接続についても具体的に検討し、教育の高度化・専門職化をさらに進めていきたいと考えています。

第二期中期目標期間を迎えるに当たり

来々年4月からは、新たな新中期目標期間としての6年間、第二期を迎えることとなります。大きな目標として、教員養成の高度化と専門職化が検討課題になりますが、忘れてはならないこととして、新しい課題に挑戦するだけでなく、第一期中期目標期間中に始めた内容を実質化していくことが挙げられます。別の言い方をしますと、これまで本学が取り組んできた課題によって、進展段階の違いはありますが、イメージレベルから具体的な実行レベル、総括を通して新しい発展的段階へと進めることが重要だと考えています。全学構成員の共通認識を形成しつつ、本学としての教員養成改革に努めていきたいと思ひます。

目指すべき教師は

教員養成大学のカリキュラムは、大きく「教養教育」「教科教育」「教職教育」の3つにより構成されています。これらが、頭の中でバランス良く融合された教師を育成することが重要

だと考えています。学校現場における教育課題は、社会状況も相まって複雑化し、多様化しています。学校で何か問題が起こった場合、教師一人では対応できない場面が多くなってきています。その時に重要なことは、校長先生や同僚との相談など、必要なコミュニケーションができる力が求められます。つまり、教師の一人として、協調性・社会性を持って行動できる教師、常識を持ち、精神的にも肉体的にもタフで、忍耐力を持った市民であることが必要と言えます。

教師を目指す高校生や 読者の皆さんへのメッセージ

まず、「教師になりたい」という希望や意欲を大切にしたいと思ひます。理数科の教師になりたい方なら、先導的な取り組みをしている本学にぜひ来て欲しいものです。また、幅広い教養に裏打ちされた教師、例えば歴史の授業の中でも、その時代の理科的・文化的な背景も念頭に置いて指導できるような、そんな教師になりたい方も本学に来て、幅広く学んでください。

社会教育・生涯教育を目指す方も大歓迎です。本学には、教員免許取得を義務づけのない、総合教育課程があります。例えば、理学部や文



学部の専門性とはひと味違う、学際的な専門性を持つ人材育成の教育を目指しています。ここで学んだ学生たちは、卒業後に幅広い分野で活躍しています。

本学は、法人化後多くの外国の大学と交流協定を結んでいます。これからは、韓国や中国など東アジア地域の大学とともに、教員養成課題に協同して取り組んでいくなど、夢は大きく東アジアの拠点校を目指して、たとえ小粒であっても特色を持った、個性豊かなキラリと光る大学を目指していきたいと思ひます。

最後になりますが、皆様方の積極的な協力をお願いするとともに、建設的なご意見を歓迎いたします。

